

# 協同の窓見

きょうどうのはっけん

第316号  
2019.3



## 「ワーカーズコープ」寄附講座運動③

### 各大学でのワーカーズコープ寄附講座開講から

- ◎ 林 薫平 福島で“協同と地域共生”についてともに考え実践する仲間づくりをめざす  
- 2018年度後期の福島大学の公開授業と福島市の映画ワーカーズ上映運動の記録 -
- ◎ 津田 直則 桃山学院大学でのワーカーズコープ寄附講座
- ◎ 田代 明 和歌山大学寄附講義を実施して 講義名：「協同労働と働くことの意味」  
- Associated Work : Studies and Practices -
- ◎ 高畠 明尚 琉球大学寄附講座「現代経済システム理論」を開講して

### 寄附講座総括と今後の展望

- ◎ 島袋 隆志×村上 了太×高畠 明尚×玉城 直美×ワーカーズコープメンバー  
沖縄四大学ワーカーズコープ論寄附講座 座談会-ワーカーズコープ寄附講座の成果・課題・未来展望 -
- ◎ 相良 孝雄 中学生の「働くこと」観と協同を伝えることの難しさ  
- 茨城県神栖市立波崎第二中学校「人生の先輩に聞く会」に参加して -

### ■海外レポート

松本 典子 【第3回】ニューヨーク市における労働者協同組合の現状③ NYC NOWC

### ■会員だより

宮崎 牧子 福祉文化と協同組合

### ■巻頭言

上平 泰博 連帯して働く人の自由と貧困についての学びなおし



一般社団法人 協同総合研究所  
JAPAN INSTITUTE OF CO-OPERATIVE RESEARCH

題字／藤原 桂州

# 協同の發見

第316号 2019.3

## 特集 「ワーカーズコープ」寄附講座運動③

### 目次

#### 巻頭言

連帯して働く人の自由と貧困についての学びなおし	2
上平 泰博(協同総合研究所 理事)	



#### 特集 「ワーカーズコープ」寄附講座運動③

・特集にあたって	5
----------	---

相良 孝雄(協同総合研究所 事務局長)



#### 各大学でのワーカーズコープ寄附講座開講から

・福島で“協同と地域共生”についてともに考え実践する仲間づくりをめざす - 2018年度後期の福島大学の公開授業と福島市の映画ワーカーズ上映運動の記録 -	8
林 薫平(福島大学食農学類准教授/映画「Workers被災地に起つ」を応援する福島の会 事務局長)	
・桃山学院大学でのワーカーズコープ寄付講座	17
津田 直則(桃山学院大学名誉教授/協同総研顧問)	
・和歌山大学寄附講義を実施して 講義名:「協同労働と働くことの意味」 - Associated Work:Studies and Practices -	23
田代 明(センター事業団関西事業本部副本部長/会員)	
・琉球大学寄付講座「現代経済システム理論」を開講して	34
高畠 明尚(琉球大学国際地域創造学部教授/会員)	



#### 寄附講座総括と今後の展望

・沖縄四大学ワーカーズコープ論寄附講座 座談会 - ワーカーズコープ寄附講座の成果・課題・未来展望 -	43
(沖縄大学 島袋 隆志×沖縄国際大学 村上了太×琉球大学 高畠 明尚×沖縄キリスト教学院大学 玉城 直美×ワーカーズコープメンバー) 【村上先生・玉城先生は紙面参加】	
・中学生の「働くこと」観と協同を伝えることの難しさ - 茨城県神栖市立波崎第二中学校「人生の先輩に聞く会」に参加して -	58
相良 孝雄(協同総合研究所 事務局長)	



#### 海外レポート

【第3回】ニューヨーク市における労働者協同組合の現状③ NYC NOWC	65
松本 典子(駒澤大学経済学部准教授/協同総研理事)	

#### 会員だより

福祉文化と協同組合	70
宮崎 牧子(大正大学教授/会員)	

労協連だより	75
高成田 健	
研究所だより	77
荒井 絵理菜	

## 卷頭言

# 連帶して働く人の 自由と貧困についての学びなおし

上平 泰博（協同総合研究所 理事）

「近代教育の父」と謳われたペスタロッチ(1746-1827)は、スイスのシュタンツ地方で孤児院、貧民学校をつくったことで知られる。18世紀半ばに始まった産業革命によって、人々は中世にすらなかった未曾有の貧困と飢餓に喘いでいた。

フランスでは市民革命(1789)が勃発し、飢餓も重なって社会的混乱期を向かえている。ペスタロッチの暮らしたスイスも、フランス革命に呼応して共和国となった。フランス植民地のカリブ海ハイチでも、世界初の黒人国家が成立するといったように、二つの革命の余波は世界中を席捲していく。

ペスタロッチは、人間は生まれながら同等平等(『隠者の夕暮れ』)であるとし、貧民、孤児たちを引き取り、主に農業を基盤に彼らの生活救済へと奔走した(『リーンハルトとゲルトルート』)。また『シュタンツ便り』には、自然のうちにある動植物の子どもたちに与える教育の効果は、最も良き生活者の教育=陶冶であると語っている。

ペスタロッチはルソーからの思想的影響を濃厚に受けたが、理論と実践の乖離が過ぎたルソーとは違い、その真

骨頂は実践者であることだった。「協同組合の父」ロバート・オーエンも、ペスタロッチの名声を知るに及んで、この貧民学校を見聞している。

詰め込み教育とスパルタ教育が一般的だったこの当時、ペスタロッチ思想と実践はヘルバート、フレーベルなどの教育者、保育者らに継承されていく。日本でも沢柳、小西、小原らによって大正自由主義教育の旗頭として普及し、設立された私立学校の多くはペスタロッチ主義思想の流れを汲み、自發性を重視した「直観(社会関係を通じて知の本質をとらえる)教育」と「労作教育」という鍵となる概念を抜きには考えられなかった。

ドイツ語のArbeitを労働ではなく「労作」と訳したのは、「一日不作、一日不食」という禪宗法話に基づき翻案されたとされる。「労作教育」には、労苦なるがゆえに創造・創作の情動労働という想いが込められ、労働と教育、生活と教育の結合が問われた。

福沢諭吉の『西洋事情』(1865)と『学問のすゝめ』(1872)には、前著では「労する」、後著は「働く、働き」と表現されるのみで、労働と直截使用したの

は、『品行論』『尊王論』以後からでしかない。福沢の著と同じく大ベストセラーとなったスマイルズの『自助論』を翻訳した中村正直『西国立志編』(1871年)の中には、「勞」「動」という用語が充てられている。

ところで、働く人たちによって結ばれた社会「連帯」(Solidarity)運動とは、他者と共にいる、他者と共に生きる「共存在」という生存権を帯びた人類史のレガシーだったのではないか。欧米、中南米の協同組合において顕著に見られる「連帯」とは、歴史社会的概念である。

Solidarity(連帯)と重なるSorority(女子の社交友愛組織、ラテン語だと「soror」姉妹)は、「友愛」(Fraternity、ラテン語の「frater」兄弟)にも由来する対語なのだ。つまり「連帯」(姉妹)と「友愛」(兄弟)は、密接不離の語源なのである。

とはいってもフランス革命の「自由」「平等」「友愛」の標語は同時同軸には展開されず、「自由」の後に「平等」「友愛」が、長い時間を経て順次に定着していく。

フランスは共和政と帝政を交互に繰り返しながら、そのつどクローズアップされる「平等」希求と、更に出遅れて「友愛」「連帯」が19世紀末に確立されていく。西欧近代化の過程において、社会と個人の進化の矛盾を止揚させようとコントやデュルケムの理論が

登場したように、その内実は紆余曲折を経ている。

15世紀から始まった「大航海時代」幕開けからの500年間は、欧米列強の植民地の獲得支配による所有と搾取が世界中で繰り広げられた。産業資本主義も、また詩人にして革命家ホセ・マルティの「人間は自由な存在である」といった諺も、「自由」渴望の名において目的を実現せんとするとき、かならずや多大な犠牲を他者に強いた。とりわけ権力者による「自由」の代償はあまりに大きい。

「自由」の権利拡張は、人間解放の合言葉でもあったが、フランス革命が教育の自由と平等をめぐる闘いでもあったように、コンドルセ(自由派)とルペルチエ(平等派)との間には烈しい対立と抗争が浮上している。「平等」「友愛」「連帯」は互酬といった相互扶助の精神のみならず、「自由」に対するストッパーにもなっていた。

しかし人類史から見たとき、「自由」は第一の欲求ではなかったと思われる。人類30万年の持続可能性は、そもそもが「連帯」と「友愛」と「平等」を基層にしていたのではないか。

そうでなければ、人類は生き残れなかっただろう。皆で食べて生きて暮らすには分ちあい、支えあい、学びあいが最優先され、共に生きて働く喜びも、「ここに自分が居る」という共存在の承認あってのことだろう。皆で食べる

ことが生きる喜びだったころ、食を得るために働くという手段として終始しない。働くことは労苦の快感であって、自らを支えてくれているという他者存在に対する感謝の意識も、表現する場の喜びもあったろう。

ところが「高度」に発達した今日の方が、共に食することすら困難（貧困）になっている。生存すら許されず、貧乏より更に低質な貧困連鎖が、どの地域の誰に対しても脅かすように押し寄せている。ヒト・人らしくが育ちにくい現況は末期社会かもしれない。

SDGsの17目標を鳥瞰すると「平等」は随所にみえる。そして第1番目の「貧困」は、第2番目の「飢餓」と分けて説明されている。かつての「貧困」は、近代化にとり憑いて離れない物的格差による「飢餓」だったのに、今は人と人の心の連結が遮断させられるばかり

りか、排除もされ、「平等」「友愛」「連帯」という「共に」が喪失されてしまう、致命的ともいいくべき「先進国」特有の「貧困」が大問題なのである。

人の誕生も死も生存もフーコーにかかると、近代的権力に巧妙に支配された「生政治」であって、同質的で無機質と化した孤独な人間としてのみ、社会システムの中に存命できるに過ぎない。あのイタリア労働者たちをイメージしたネグリのAutonomia（自治自律）を模倣するなら、強いられ忌避したくなる労働などお断りだと、その苦悩を意識化しているうちにこそ問われるべきだろう。

貧困と労働と学びは、いつも三面表裏の関係にある、そのことに自覚的でありつづけたい。

大田堯先生を偲んで 合掌

協同総合研究所は、労働者、市民が自らの力で自律的に仕事と生活の豊かさを求める活動を支援するシンクタンクです。わが国にも「大量失業の時代」が到来する中で、労働者、市民が自主的に仕事おこしをする労働者協同組合（ワーカーズコープ）への注目が増しています。研究所は、[わが国唯一の「労働者協同組合」に関する専門研究機関](#)です。



研究活動をネットワークし、蓄積された情報を資源として支援する「[協同の発見](#)」を会員のみなさまに毎月お届けいたします。



●今月の表紙

茨城県神栖市立波崎第二中学校で「人生の先輩に聞く会」での一コマ。生徒に働くことの目的と今までとこれから的人生を一文字で表わすワークショップを行なった後、生徒が発表しているところ。中学生の学びから「協同すること」の実感や必要性をどう広げるのかという問い合わせいただきました。

## 所報 協同の発見 3月号(通巻 316号)

2019年3月15日(毎月1回15日発行)

編集・発行／一般社団法人 協同総合研究所

代表／島村 博

〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-44-3 池袋ISPタマビル7F

Tel 03(6907)8033 Fax 03(6907)8034

Email [kyodoken@jicr.org](mailto:kyodoken@jicr.org) URL <http://jicr.org/>

郵便振替口座 00140-7-552949

定価 1,300円(本体 1,204円)